

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105051		
法人名	医療法人博和会		
事業所名	グループホームすずな		
所在地	長崎市愛宕4丁目11番1号		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成27年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成26年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は繁華街に近く、バス停がすぐ側にあるなど、交通の便が良い場所にあります。母体は医療法人で、同じ建物に併設施設があり、医療、栄養、生活リハビリなどについて専門職に相談したり、利用者の状態の変化に沿って必要に応じて支援することができます。職員は自分達でつくった介護理念に沿って、特に「そのひとらしさ」を大切に考えたケアが出来るよう努めています。建物の4階は台風などの自然災害時の地域の避難場所になっており、火災避難時は地域の方が見守り支援をしてくださるなど協力関係を築いています。その他、地域の他のグループホームと花火大会やおやつバイキングなどの相互訪問を行ったり、自治会の方々と一緒に夏祭りや忘年会など交流を図っています。近くに新しいショッピングセンターも出来、利用者の要望に沿って、買い物や外食などに外出したいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は繁華街にほど近い利便性が良い場所に位置している。敷地内には母体である医療法人の病院や高齢者介護施設があり、医療面や食事等栄養管理面も支援体制がある。近くにショッピングセンターが新たに出来た事で、気軽に利用者が買い物や外食を楽しめる環境となった。運営理念を基に職員が考えた介護理念『私達は、この地域の中で、ご家族様と共に、あなたが「あなたらしく」穏やかな生活が送れるように努めます。』を掲げ、利用者が自分らしく過ごせるように日々のケアに努めている。居室は全室日当たりも良く、利用者の馴染みの物や好みの物が置かれ、一人ひとりに合わせた配置や飾付けを工夫した心地よい空間である。事業所の忘年会や災害訓練等行事等に地域住民が積極的に参加したり、地域の祭り等に職員や利用者が参加するなど密接な関係が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームすずな(1丁目)
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念とは別に、介護の現場職員皆の意見を聞き、皆の総意で決めた介護理念を基に、特にその人らしさを大切に考えて実践できるように努めている。	事業所が掲げる運営理念を踏まえ、職員の意見を取り入れ介護理念を作成している。特に「あなたらしく」生活が送れるように支援するとの思いが強く利用者一人ひとりの思いを聞きその人らしい穏やかな暮らしが出来るケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の中で自治会長や民生委員の方から情報をいただきながら、交流に努めている。また、情報や意見を基に、利用者と一緒に近くのスーパーに買い物に行ったり、ファミリーレストランに食事に行ったりしている。	当施設が位置する建物内の一室が自治会の会合に使われている。普段から通院や散歩中に、自治会長や民生委員を含め近隣住民と挨拶するなど日頃から交流がある。自治会婦人部と一緒に精霊船のお花作りやランチバイキングの参加・夏祭りの参加等交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を通して、認知症の方への理解や支援の方法について話し合ったり、見学者や電話相談などにも丁寧な対応を心掛けて説明を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回活動報告や事故・ヒヤリハット防止策などについての報告を行ない、相談したり、助言をいただきながらサービス向上に活かしている。	運営推進会議は規程の参加者で年6回開催している。行事予定や結果、事故等の報告が行われている。意見交換が活発に行われており、災害時の相互協力体制や各種研修会・感染症の状況等が議題となり、その対応が話し合っている。また、地域の情報を得て支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員に、毎回運営推進会議に出席してもらい施設の実情を伝えたり、地域の情報を得たりしながら意見を伺っている。また、記録等について相談に行き、意見やアドバイス等いただいている。	包括支援センターの担当者とは事業所の状況報告を行っている。利用者の申請手続き相談や法令改正時等の不明点を問い合わせている。また、行政から研修会のお知らせがあり、内容に合わせて職員が受講している。介護相談員も年に1度、受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロの手引き」の資料を基に、定期的に施設内で研修を行っており、職員は身体拘束の弊害について理解している。実践においても、お互いに見過ごすことのないように留意し、身体拘束をしないケアに努めている。	年1回身体拘束に関する研修を実施し、管理者を含めた職員全員が出席して正しく理解するよう取り組んでいる。玄関は夜間のみ施設されている。建物の構造上死角になる場所はミラーを取り付ける等、工夫している。言葉遣いや声の大きさも注意を払い、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修と合わせて、定期的に施設内で研修を行っており、日頃から言葉遣いや態度など職員同士でもお互い気をつけるようにしている。気になるような事例がある時は、ユニット会議等の場でも話し合っ防止に努めている。		

グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の資料等を基に施設内研修を行なっている。必要と思われる場合は関係者と話し合いを行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行ない、理解・納得を得られるよう努めている。不明な点などがある場合は、いつでも遠慮なく尋ねてくださるように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付に意見箱を設置している。普段から面会時には声を掛けて、意見等話しやすい雰囲気作りに留意している。また、運営推進会議にも出席していただいて意見を伺いながら、運営に反映出来るよう努めている。	利用者や家族が出席する運営推進会議や面会時の職員の積極的な声掛けにより、意見の出しやすい環境を整えている。意見箱に投函された家族の意見により、玄関に職員の写真と名前、居室の入口に利用者と担当職員の写真とコメントを掲げる等、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催しているユニット会議や全体会議で、職員の意見を聞きながら、問題点や提案について共に考える機会を設けている。	年に1度、職員は法人代表者と面談の機会がある。また、管理者とは必要に応じて話し合っている。月1回の全体会議では全員が発言できる雰囲気であり、全職員が発言している。浴室に時計を設置したり、リビングのガラスにスタンドグラスシールを貼るなど職員の提案を反映した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう、人事考課にて、評価している。更に処遇についても厚遇していけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や施設内研修にて職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、情報供給の場を設けている。他事業所のイベントに参加して交流を図っている。		

グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの相談が初めにあるが、お話を聞いた上で、ご本人と会って出来る限り話を聴く機会を作って信頼が得られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの話を出来る限り聴き、困っていることや要望などを受け止め、信頼していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設への申し込み方法や他のグループホームの空き状況や料金等の情報を伝えたりしながら、他のサービスを含めた選択肢が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である方々に敬意を表し、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にして、ご本人から学び、支え合う関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでのご本人とご家族の関係の理解に努め、職員は、ご本人に対してご家族にしか出来ない精神面の支援があることを踏まえて、ご家族と話し合い協力を得ながら、共にご本人を支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所について、ご本人との会話やご家族からの情報を一つでも多く得られるようにしながら、個別の支援に努めている。	趣味の友達や神父、シスターの訪問があったり、海外に住んでいる教え子から花が届いている。家族に宛てて本人手書きの年賀状を送る支援は、家族からも喜ばれている。日常的な会話から馴染みのものを聞きとり、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係も変化していくことがあると考え、その時々状況を把握しながら、利用者同士が関わり合い、支え合うことが出来るような支援に努めている。		

グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後のご様子をご家族にお聞きしたり、入院し退居された利用者のご家族からの相談を受けたり、病院にお見舞いに伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人にお話を聴きながら出来るだけ一人ひとりの希望や意向が把握出来るよう努めている。お聴きするのが困難な場合は、行動や表情、反応などを観察し、職員間で情報を共有しながら本人本位に検討している。	利用開始前に利用者や家族から生活歴を聞き取り、フェイスシートを作成している。日々の支援の中で、利用者との会話から得た新たな情報も、その都度追加記入し、職員全員で共通している。発語困難な利用者は不安な表情等からサインを読み取り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に生活歴を書いていたいたり、お話を伺ったり、ご家族からも伺ったりして情報を収集して記録している。また、その情報を職員間で共有出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りを詳細に行ない、必要に応じてその場で話し合ったり、申し送りノートを活用しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決めてアセスメントを行ない、毎月のカンファレンスで話し合っって介護計画に反映している。担当者以外の職員も意見や工夫を出し合い、ミニミーティングを行なったりしながら、現状に即した介護計画に繋がるよう努めている。	長期目標12ヶ月、短期目標6ヶ月で計画している。アセスメントは各担当者で行い、家族・医師・栄養士・他職員の意見も取り入れ、計画を作成している。ケアプランに番号を付け、実践状況を記録する事により、わかりやすく改善されている。ただし、全職員による介護記録の理解が不十分の為記載方法の統一が課題である。	担当者やケアマネジャーだけではなく、全職員で介護計画の重要性を理解し共有する事が大切である。新しい職員についても更なる重要性の理解と、共通した記録の徹底を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を見やすいようにケース記録に綴じ、番号を付けて実践の記録をしやすいようにしている。介護計画の見直しに活かせるような実践状況の記録内容は職員によって少し差がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お話を聞きながら、出来る限り要望に沿った柔軟な対応が出来るよう努めている。また、随時ミニミーティングを行ないながら、その時々々のニーズに対応出来るよう取り組んでいる。		

グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員のボランティア活動、ハワイアン教室の皆さんのボランティア、ピアノや声楽のボランティアなどに来ていただいている。婦人部の精霊流しのお花作りの手伝いには、利用者と一緒に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望に沿って、出来るだけかかりつけ医の継続を支援している。ご家族が付き添えない場合は、職員が付き添って主治医へ情報提供を行ない、受診結果をご家族へ報告している。	かかりつけ医は利用者・家族の希望に沿って、受診が継続出来るよう支援している。事業所・家族は互いに受診結果の報告し情報を共有している。職員間は申し送りの際の伝達や個人記録に記載して共有している。同一建物内に老人保健施設があり、常時看護師が待機しており、緊急時の対応も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師に情報や気付きを伝えて相談したり、受診の指示をもらったりしている。また、当直看護師にもその日の情報や気付きを伝えて、相談したり、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、地域連携室の担当者や病棟の看護師に情報を伝えたり、退院に向けて情報交換や主治医、リハビリの関係者等への相談を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針については、入居時にご家族に説明し同意を得ている。入居後も個別に、終末期のあり方や事業所で出来ることなどを伝え、話し合いながら支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の対応に係る指針」は、利用開始契約時に利用者及び家族に説明している。利用者の状況によって、医師からの診断を受けた場合は、利用者及び家族の同意を得て、看取りに今後取り組む事としており、事業所としての適切な対応に向けて職員に対し看取りのケアに関するアンケートを実施する等体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、順次救急救命の研修を受けている。定期的に施設内研修を行ない、様々なケースを想定し、実践力が備えられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月避難訓練を実施しており、避難方法等具体的に検討している。災害時には、建物4階が地域の避難場所になっている。運営推進会議を通して火災時の地域との協力体制を築いている。日頃からコンセントの掃除など環境整備に努めている。	毎月の避難訓練は、出火場所や時間帯・避難経路等を変更して実施している。実施後は職員からの改善点や地域住民の感想、消防署からの注意点等を実施報告書に記載している。避難時に利用者を見守る地域の協力者と見物人を区別出来るよう、腕章を付ける案等の意見が出ている。	

グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から口調や言葉使いには注意しており、定期的な会議でも、接遇に関する気付きなどについて話し合っている。	利用者の呼称や言葉遣いは、一人ひとりの人格を尊重して対応している。個人記録は人目に付きにくい所定の場所に保管している。職員から入社時に守秘義務に関する誓約書を取っている。利用者の写真使用について、家族からの同意を得ているが書面での同意を得ていない。	利用者の写真使用はプライバシー保護の観点から、本人や家族に対し口頭での説明だけではなく、文書で同意を得ることが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行なう際には、必ず利用者の意思を聞くようにしている。出来るだけ、促しではなく？の形で尋ねるようにしている。自己決定が困難な方には、表情を見ながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間に合せて食事をずらしたり、出来るだけ一人ひとりのペースを大切に考えながら、希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の着替えの準備や外出の服選びは、ご本人の希望を聞きながら一緒に行なっている。外出時や行事の時は、お化粧をすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや状態に合わせて食事を提供している。献立に合わせて見栄えよく盛り付けたり、食べやすい食器を選んで利用者と一緒におやつを作ったり、材料を買いに行ったりしている。	おかずは法人の別事業所から搬送されており、ご飯とおやつはユニット毎に調理している。利用開始前の嗜好調査や法人栄養士を含めて月1回開く給食会議により、個々に合わせた食事を提供している。回転寿司の夕食、ランチバイキングや忘年会の出前もあり、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた栄養バランスの良い献立を提供している。ご本人の食べる楽しみを支援しつつ、医師や管理栄養士、ご家族に相談しながら、個別の状態に沿った食事が提供出来るよう努めている。食事や水分摂取量は毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の能力に合わせた口腔ケアの介助を行なっている。歯科医師にも個別に口腔ケアについて相談し、助言をいただいている。		

グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄チェック表の記録をもとに、パターンを考慮しながら、状態に合わせてトイレ誘導、介助を行なっている。失敗がある方は、ご本人の気持ちに配慮したケアが出来るよう努めている。	生活記録の排泄チェック表にて24時間の記録を取り、排泄パターンを把握している。基本的に日中はもちろん夜間もトイレ誘導を行っている。トイレ移動まで時間のかかる利用者の為に、居室にポータブルトイレを設置するなど個々に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を多く摂ったり、おやつに材料に食物繊維の多い物を使用したり、散歩を取り入れたりして便秘の予防に努めている。薬が必要な方は、主治医に相談しながら、その方に合った薬を処方してもらい、様子を見て減らせるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を見て本人の希望に沿って実施しているが、職員不在で安全に実施出来ない時は、希望に沿えないこともある。拒否気味の方は、無理に勧めず、様子を見ながら声掛けを工夫して、必ず本人の意思を確認して実施している。	毎日、入浴の準備をしており、2、3日に1回の入浴を支援している。利用者の様子にあわせてシャワー浴だけの時や入浴を拒否する利用者には下着交換、足浴、清拭を行い、対応している。希望に沿って同性介助も対応している。竹炭や柚子を入れたり利用者との楽しみになるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自分で動けない方は、体の負担や生活のリズムを考慮し、ソファや居室のベッドで休んでもらっている。日中の活性化を図り、居室の温度調節や寝具などで安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、職員誰もがいつでも見られるように個別のケース記録にファイルし、内容の理解に努めている。症状の変化に早く気付くよう様子観察をしながら、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おやつ作り、手芸、音楽やおしゃべり、散歩やドライブなど、利用者一人ひとりの好まれることや楽しみについてアセスメントし、職員間で情報を共有して、楽しみごとや気分転換などの支援ができるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、その日の一人ひとりの希望に沿って外出することは難しいが、予定を立てて出来るだけ希望に沿った外出が出来るよう努めている。	事業所内で、他のグループホームを訪問したり、花火大会を合同で見物したり、合同で市民の森にドライブに出掛けたりしている。日常的には近くのスーパーへの買い物や、事業所建物内の別の階にある、リハビリ室や保健施設に遊びに行ったりと、気分転換になるよう支援している。	

グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にご本人やご家族とお金の所持について話し合い、ご本人の希望や力に合せて所持していただいている。買い物に行った時には、ご本人が自分で使うことができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親戚の方からの電話を取り次いだり、依頼を受けて職員が電話し、話をされている。手紙や葉書はご本人にお渡したり、職員が代わりにご本人の前で読んで伝えたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の意見を聞きながら、行事や季節感を取り入れた飾り付けを行ない、居心地良く過ごせるように努めている。	居間には行事の際の利用者の写真や利用者が職員と一緒に作った季節の工作物のほか、利用者が書いた習字等の作品も飾られている。職員は毎日の掃除、温度や湿度の管理など利用者が過ごしやすいよう努めている。昔の長崎市内の写真が飾られ思い出を引き出すのに役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いくつかあるソファの配置を変えたりしながら、それぞれが寛いで過ごせる場所になるよう工夫している。一緒におしゃべりしながら洗濯物をたためるような場所をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者が、思い思いに家具や馴染のあるもの、好みのものを持ち込まれている。ご本人やご家族と相談しながら、家具の模様替えなどの支援も行なっている。	使い慣れた家具等を持ち込んでいる。家具やベッドも利用者の状態を考えて生活しやすい様に配置している。利用者に合わせて趣味の書籍や家族・知人の写真、ぬいぐるみ等を飾っている。掃除は職員が毎日行い、各部屋に温度計・湿度計を設置し、利用者が快適に過ごせるように管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は、車椅子でも十分移動できる広さがあり、廊下や浴室、トイレには、手すりを設置している。浴室入り口には、わかりやすいのれんを掛けており、リビング等には、利用者が見やすい位置に時計やカレンダー、日めくりを掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念とは別に、職員皆の意見を聞き、皆の総意で決めた介護理念であり、特にその人らしさを大切に考えて実践できるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパーに買い物に行ったり、ファミリーレストランに食事に行ったりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を通して、認知症の方への理解や支援の方法について話し合ったり、見学者や電話相談などにも丁寧な対応を心掛けて説明を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回活動報告や事故・ヒヤリハット・防止策などについての報告を行ない、意見を伺ったりしながらサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい施設の実情を伝えたり、地域の情報を得ている。記録等について相談し、意見やアドバイス等いただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロの手引き」の資料を基に、定期的に施設内で研修を行っており、職員は身体拘束の弊害について理解している。実践においても身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修と合せて、定期的に施設内研修を行っており、日頃から言葉遣いや態度など、職員同士でもお互い気をつけるようにしている。気になるような事例がある時は、ユニット会議等の場で話し合っ防止に努めている。		

グループホームすずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の資料を基に施設内研修を行なっている。必要と思われる場合は、関係者と話し合いを行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行ない、理解・納得が得られるよう努めている。不明な点などがある場合は、いつでも遠慮なく尋ねてくださるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付に意見箱を設置している。普段から面会時には声を掛けて、意見等話やすい環境作りに留意している。また、運営推進会議にも出席していただいて意見を伺いながら、運営に反映出来るよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催しているユニット会議や全体会議で、職員の意見を聞きながら、問題点や提案について共に考える機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう、人事考課にて、評価している。更に処遇についても厚遇していけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や施設内研修にて職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、情報供給の場を設けている。他事業所のイベントに参加して交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人と会い、出来る限り話を聴く機会をつくり、信頼されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から出来るだけ話を聞き、困っていることや要望を受け止め、信頼してもらえるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設への申込方法や他のグループホームの空き状況の情報を伝え、料金等の説明を行い他のサービスを含めた選択肢広がるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや手作業を行なっている。昔の事を聞いたりし勉強させてもらい、また、日々楽しく生活できるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にこられた際はゆっくり過ごせるように配慮し、日頃の様子や状態の変化等出来るだけ詳しく伝えるようにしてる。時にはご家族への協力を依頼し御本人と一緒に支えていける関係を築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別の情報を基に支援できるように努めている。友人や知人の面会もあり。家族が入っている他の施設に訪問に同行している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事以外でも共同作業やレクレーションを行い、職員が間に入り会話等交流支援を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移った後の様子をご家族に聞いたり、また、施設訪問し御本人や、担当職員から話を伺ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聞きながら出来るだけ一人ひとりの希望や意向の把握ができるように努め、困難な場合は表情や反応を観察等行い推測し、ご家族から話を伺ったりし、職員間で話し合い情報の共有に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人やご家族から話を伺い情報収集し記録している。その情報が職員間で共有出来るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りを行い、申し送りノートに記録し現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決めアセスメント行なっている。毎月のカンファレンスで話し合い介護計画に反映し、担当者以外でも気が付きがあれば意見を出し合い具体的なケア内容に繋げている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に計画書を見やすく綴じているが個々の職員で記録の仕方に差があり、介護計画の見直しの為の記録としては不十分である		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	話を聞きながら出来る限り要望に沿えるように努めている。その時々ニーズに沿った対応ができるように取り組んでいる		

グループホームすずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の精霊流しのもやい船作に毎年参加し、民生委員の訪問手遊びもあり。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人やご家族の要望に沿って出来るだけかかりつけ医の継続を支援し、家族が付き添えない場合は主治医への情報提供を行い、受診の結果家族へ報告している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携看護師や毎日の当直看護師へ情報伝達・相談し受診の指示ももらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護しやソーシャルワーカー等に情報を伝え、退院等について情報交換や主治医へ相談等おこなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針については、入居時にご家族に説明し同意を得ている。入居後も個別に、終末期のあり方や事業所で出来る事などを伝え、話し合いながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	順次消防の救命救急の研修を受けている。定期的に施設内研修を行い実践出来るように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月の避難訓練。年2回の建物全体の総合避難訓練おこなっており、地域との協力体制もあり。建物4階地域住民の避難場所として提供している。夜間、乾燥機使用禁止し定期的コンセント付近の埃を清掃し、不要なコンセントは抜いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや口調に気を配っている。職員間での情報を共有しつつ、利用者のプライバシーに十分配慮するようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ促しではなく？の形で尋ねるようにしている。自己決定が困難な方には体調や表情をみながら働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、一人ひとりのペースを第一に考え、起床時間によって食事をずらしたりとケアをおこなっているが、希望に沿えない時もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や施設行事等の際、洋服を決めかねている方の相談にのったり、施設行事の際は化粧支援を行いオシャレを楽しんでもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士や厨房の協力のもと、個別に好みや状態に合わせた食事を提供している。食事の準備はできる能力がある方には小鉢や果物の盛りつけを依頼し、片付けは職員で行なっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を提供。食事・水分の摂取量記録。個別に医師・管理栄養士・ご家族相談しながら御本人に合った食事の形態を提供。ソフト・軟菜・お粥等。必要に応じて栄養ドリンク等も提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び毎食後口腔ケアの声かけ見守りを行い、自己にてできない方には職員にて行い、夕食後は義歯洗浄剤使用し清潔にし、個別に歯科医にも相談している		

グループホームすずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄介助行なっている。出来るだけ利用者の状態に合わせたケアができるように努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を第一に考えながらも主治医へ状態報告相談しながら利用者にあった下剤の処方をしてもらっている。個別に栄養士へ相談し食物繊維の多い飲み物を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調見ながら希望に沿った入浴を行なっているが職員不在等にて安全の実施できない場合は希望に沿えないこと事もあり。入浴好まれない方には様子を見ながら声かけを工夫し、本人の意思を確認し支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で動けない方には体調や生活のリズムを考慮し居室にて休んでもらっている。寝具及び室温調整行い安眠出来るように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース記録に綴じて、確認、把握出来るようにしている。受診や薬をセットする際には説明書みて薬剤師と連絡を取り症状に変化見られたら主治医報告対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好まれることや楽しみについて職員間で情報の共有を図りその時に必要な支援が行えるように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿った支援が出来るように努めるが時には希望に沿えない事もあり、ご家族へ協力を依頼している		

グループホームすずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人やご家族と話し合い万単位でのお金は事務所に預け、希望や能力によって小銭から数千円は所持してもらい、買い物等に使用される		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の電話取次し、依頼を受け職員がかけたり、ユニット内の電話を貸すこともある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や季節感を取り入れた飾りつけを利用者の方の意見聞いたりし、居心地よく過ごせるように努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前にソファがあり、他に椅子や作業用のテーブルあり、雑誌も置いており、少しでもリラックスできるような場所を提供できるように努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個別に馴染みのある家具や好みのものを持ち込まれている。状態に合わせてご家族共に相談しながら模様替えの支援も行なっている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は車椅子でも十分に移動が出来る広さがあり、廊下・浴室・トイレには手すりがあり、利用者様の変化もあり、トイレ手すり新たに設置し、今後も利用者の変化等に合わせていくようにしてる		